



神奈川県
環境科学センター

令和7年版（2025）

神奈川県環境科学センター

年

報

第57号

令和8年3月

巻頭言

年報の発行によせて

所長 加藤 陽一

平素は神奈川県環境科学センターの業務に御理解と御協力を賜り、厚くお礼申し上げます。このたび、令和7年度版第57号の事業概要（年報）がまとまりましたので、御報告申し上げます。

今年は8月にスイス・ジュネーブでプラスチック汚染に関する法的拘束力のある国際文書（条約）の策定に向けた第5回政府間交渉委員会再開会合（INC5.2）が開催されましたが、実質合意には至りませんでした。「プラスチック汚染を終わらせる」ことは世界共通の目標ですが、その目標に至るための手法は複数あるためと思われます。当センターも「かながわプラごみゼロ宣言」に則り調査研究を行っています。

また、令和6年度は、世界気象機関によると世界平均気温が史上最も高くなり、産業革命前の水準と比べて1.55℃上回りました。これは「国連気候変動枠組条約締約国会議（通称COP21）」で合意されたパリ協定における世界共通の「長期目標として2℃目標の設定。1.5℃に抑える努力を追求すること。」の1.5℃を、単年度ですが初めて超過しました。日本でも+1.48℃で最も高い値となりました。

当センターは、神奈川県気候変動適応センターにも位置付けられており、「環境監視等の実施」、「調査研究の推進」、「環境学習の推進」に加え、「気候変動適応の推進」の4分野の業務を展開しています。本年報では気候変動適応の推進を除く3分野の業務について報告しています。

環境監視業務では、大気、水質や自動車騒音の常時監視を実施しています。令和6年度は光化学スモッグ注意報の発令日数が12日と過去10年で最多となり、被害届もありました。大気、水質等の汚染は全体としては改善傾向にありますが、環境基準が達成されていない項目もあり、引き続き常時監視による環境汚染状況調査が必要です。

調査研究では、行政関連の調査等の業務として、地域県政総合センターからの依頼に基づき、工場事業所等の基準適合状況を確認するための分析を行うことにより、生活環境の保全のための一翼を担っています。加えて、マイクロプラスチック関係、環境 DNA を用いた生態系調査、POPs 等有害化学物質の環境調査など様々な調査研究を行いました。これらの調査研究は、学会等での公表のほか、当センターの研究報告や、業績発表会等でお伝えしています。

環境学習では、オンライン形式により社会人リーダー層も受講しやすいオンデマンド方式も活用した環境学習リーダー養成講座などリーダー層育成事業のほか、地域に開かれた機関として施設公開や出前講座等、多くの方に参加していただきました。

当センターでは、これからも蓄積した技術に磨きをかけ、新たな課題に対応できるよう引き続き体制を整備し、今後とも県民の皆さまの安心・安全な生活の確保と環境に対する意識の高まりに貢献するとともに、信頼される開かれた試験研究機関を目指してまいりますので、より一層の御支援と御協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします

(環境科学センター年報 巻頭言)

目 次

1 沿 革	1
2 運営概要	2
2. 1 所在地	2
2. 2 敷地及び建物	2
2. 3 環境学習施設	2
2. 4 環境常時監視施設	2
2. 5 主要検査・研究機器	2
2. 6 組織及び業務内容	3
2. 7 職員配置数	3
2. 8 予算執行状況	4
2. 8. 1 令和4年度歳入歳出決算額	4
2. 8. 2 年度別歳出決算額	4
2. 9 環境安全管理協議会	5
3 事業概要	6
3. 1 環境情報部環境活動推進課	6
3. 1. 1 企画調整業務	6
3. 1. 2 環境学習業務	18
3. 1. 3 神奈川県気候変動適応センター	21
3. 2 環境情報部環境監視情報課	23
3. 2. 1 環境監視業務	23
3. 2. 2 環境情報の管理・提供業務	27
3. 2. 3 行政関連の調査等の業務	29
3. 2. 4 その他業務	29
3. 3 調査研究部	31
3. 3. 1 調査研究業務	31
3. 3. 2 環境監視業務	41
3. 3. 3 行政関連の調査等の業務	42